

1) 早生品種の生育と病害虫の発生状況について

①早生品種の生育状況

コシヒカリ・・・平年より若干短いですが、穂は平年並みの長さです。

キヌヒカリ・・・平年よりやや長めです。特に穂が長くなっています。

②病害虫の発生状況

病害・・・ほぼ見られませんでした。

害虫・・・ウンカ類は少ない状況です。カメムシ類は、山田町、大沢町、道場町の調査ほ場で捕獲されました。調査地点以外でも北区全域でカメムシ類の発生が確認されています。特に山田錦等の晩稲品種のほ場では、よく観察して注意して下さい。

病害虫	いもち病 紋枯病	セジロウカ ヒメトビウカ ツマグロヨコバイ	トビイロウカ (秋ウカ)	カメムシ類
発生 現況	無	少	無	多
発生 予想	平年並	並	平年並	多

品種	項目	年次	9月5日
コシ	穂長 (cm)	本年	18.5
		平年	18.8
		比	98%
	稈長 (本)	本年	86.8
		平年	86.5
		比	100%
キヌ	穂長 (cm)	本年	19.8
		平年	18.7
		比	106%
	稈長 (本)	本年	79.8
		平年	79.5
		比	100%

2) 今後の栽培管理について

①コシヒカリ、キヌヒカリ

コシヒカリは収穫期に入っています。キヌヒカリは、9月中旬頃刈取となります。早期落水による田面の過乾燥は、登熟不足や胴割れ米、乳白米の原因となりますので、刈取の7~10日前まで適度な湿りを保ちましょう。

②山田錦

出穂期前後は十分な水が必要です。乳熟期以降は間断かん水を行い、水を溜めたままにせず、早期の落水は避けます。収穫時期の目安は、出穂後45日となるので出穂期を把握しておきましょう。

カメムシ類が、出穂前後の防除を行っていないほ場で多く捕獲されました。ほ場でカメムシ類が多く見られましたら、できるだけ早く(9月上旬)防除を行きましょう。

出穂後：スタークル粒剤(3kg/10a)又は

スタークル豆つぶ(250g/10a)で防除をしましょう。

3) 刈り取りのポイント

- ・平均的な穂の充実した籾の85%が黄化(山田錦は90%)したときに刈り取りしましょう。
- ・早刈りは、未熟米、くず米が増える原因となるので避ける。
- ・遅刈りは、胴割れ、茶米、玄米の光沢が落ちる原因となるので避ける。

早刈り、遅刈りを避け、適期収穫に努めましょう。

次回は令和5年9月26日(火)に早生品種の収量調査を実施します。

お問合せ先 J A兵庫六甲 神戸北宮農総合センター

TEL: 078-981-5540

FAX: 078-981-5817

1) 生育状況について

コシヒカリ、キヌヒカリは登熟期に入っています。

山田錦の生育状況は、草丈は平年より低く、茎数は平年より少なめとなっています。出穂期は平年並の見込みです。

病害は、紋枯病は淡河地区の1ほ場で若干見られましたが、いもち病は確認されませんでした。

ウンカ類について、ヒメトビウンカ、セジロウンカの発生が見られましたが、少ない状況です。カメムシ類は、イネカメムシ、ホソヘリカメムシ、アカスジカスミカメが多発しています。

病害虫	いもち病 紋枯病	セジロウンカ ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	トビイロウンカ (秋ウンカ)	カメムシ類	品種	項目	年次	8月18日
					山田錦	草丈 cm	本年	97.7
平年	101.0							
比	96.7%							
茎数 本	本年	20.6						
	平年	22.8						
	比	90.4%						
発生 現況	微	微	無	多				
発生 予想	平年並	平年並み	平年並	多				

2) 今後の栽培管理について

○コシヒカリ、キヌヒカリ

現在、登熟期間中です。早期落水による田面の過乾燥は、登熟不足や胴割れ米、乳白米の原因となりますので、刈取の7~10日前まで適度な湿りを保ちましょう。「平均的な穂の充実した籾の85%が黄化したとき」が刈取適期です。適期収穫に努めましょう。

○山田錦

山田錦は出穂の時期を迎えます。出穂前後は十分な水が必要です。また、乳熟期以降は間断灌水を心がけましょう。

○病害虫

出穂後すぐに不稔をもたらすイネカメムシと斑点米をもたらすカメムシ類、どちらも多く確認されています。特にイネカメムシが多く見られるほ場では、出穂後の基幹防除に加え、出穂前にも防除をお願いします。

病害虫は全体的に少なめですが、天候等により急な発生の可能性もあります。ほ場の観察等をよろしくをお願いします。



イネカメムシ

3) カメムシ類対策について

山田錦は8月22日頃(出穂前)と

9月5日頃(出穂5日後~1週間後)

の2回の防除を行いましょう。

1回目(出穂前): トレボン乳剤(60~150L/10a)又は

トレボン粉剤DL(3~4kg/10a)

2回目(出穂後): スタークル粒剤(3kg/10a)又は

スタークル豆つぶ(250g/10a)で防除しましょう。

次回の調査予定日は、令和5年9月5日(火)です。不明な点は問い合わせ下さい。

お問合せ先 JA兵庫六甲 神戸北宮農総合センター

TEL: 078-981-5540

FAX: 078-981-5817

1) 生育状況について

コシヒカリの生育状況は、草丈はやや低く、茎数は平年並です。キヌヒカリ・山田錦は、草丈は平年並で茎数は少なめです。

病害虫の発生状況は、カメムシ類（イネカメムシ含む）については管内全域で多く発生しています。ウンカ類について、ヒメトビウンカ、セジロウンカの発生は少ないです。トビイロウンカ（秋ウンカ）は確認されませんでした。

いもち病や紋枯れ病については発生が見られませんでした。

病害虫	いもち病	セジロウンカ ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	トビイロウンカ	カメムシ類
発生現況	無	微	無	多
発生予想	平年並	平年並	平年並	多

品種	項目	年次	8月1日
コシヒカリ	草丈 cm	本年	105.1
		平年	108.0
		比	97.3%
	茎数 本	本年	22.4
		平年	22.8
		比	98.2%
キヌヒカリ	草丈 cm	本年	93.6
		平年	95.8
		比	97.7%
	茎数 本	本年	21.3
		平年	22.6
		比	94.2%
山田錦	草丈 cm	本年	82.4
		平年	85.6
		比	96.3%
	茎数 本	本年	20.5
		平年	22.9
		比	89.5%

2) 今後の栽培管理について

コシヒカリ、キヌヒカリは出穂～穂揃い期に入ります。出穂期前後は湛水管理とし、出穂1週間後からは飽水管理（表面に水がたまらない程度）により、根の活力を維持しましょう。

山田錦は穂肥の時期を迎えます。幼穂の長さを確認し、穂肥を適期に施用しましょう。特に、2回目の穂肥は粒張りを向上させる重要な作業です。

3) カメムシ類対策について

コシヒカリ、キヌヒカリでは、2回目の防除を8月上旬（出穂後）に行いましょう。山田錦は8月20日頃（出穂前）と9月5日頃（出穂後）に2回防除を行いましょう。

《防除時期と薬剤》

1回目（出穂前）：トレボン乳剤（60～150L/10a）又は
トレボン粉剤DL（3～4kg/10a）

2回目（出穂後）：スタークル粒剤（3kg/10a）又は
スタークル豆つぶ（250g/10a）

2回防除により、不稔と斑点米の被害を軽減します。

4) その他

早期落水による田面の過乾燥は、登熟不足や胴割れ米、乳白米の原因となりますので、刈取の7～10日前まで適度な湿りを保ちましょう。

例年に比べてカメムシ類が多く確認されています。また、隣接県では既に秋ウンカが確認されており、害虫被害への懸念が高まっています。害虫を圃場で多く見られた場合は、お近くのJA支店までご相談のうえ、必要ならば防除などの対策を実施しましょう。

次回の調査予定日は、令和5年8月18日（金）です。

お問合せ先 JA兵庫六甲 神戸北宮農総合センター

TEL：078-981-5540

FAX：078-981-5817

1) 生育状況について

6月の天候の特徴は、気温が高く、降水量は西日本太平洋側で多くなりました。日照時間は5月下旬から6月中旬までと6月下旬から7月上旬にかけて少なくなっていました。

○コシヒカリ、キヌヒカリ、山田錦の生育状況(右表)
 草丈：ほぼ平年並み、茎数：平年より少ない

○病虫害の予察結果

病虫害	いもち病	セゾウウンカ ヒメヒョウウンカ ツマグロヨコバイ	トビイロウンカ	カメムシ類
発生程度	微	少	無	小～大*
発生予想	並	やや多	やや多	多

品種	項目	年次	7月13日
コシヒカリ	草丈 cm	本年	78.3
		平年	81.0
		比	96.7%
	茎数 本	本年	19.7
		平年	27.9
		比	70.6%
キヌヒカリ	草丈 cm	本年	70.4
		平年	75.5
		比	93.2%
	茎数 本	本年	18.1
		平年	21.5
		比	84.2%
山田錦	草丈 cm	本年	57.7
		平年	62.4
		比	92.5%
	茎数 本	本年	18.6
		平年	23.0
		比	80.9%

(一部ほ場で収量に影響するイネカメムシの多発生が見られました。)

2) 今後の栽培管理について

コシヒカリ、キヌヒカリは出穂期に入ります。出穂期前後は湛水管理とし、出穂1週間後からは飽水管理(表面に水がたまらない程度)により、根の活力を維持しましょう。山田錦は幼穂形成期に入ります。中干しを終え、出穂期まで間断灌水を実施しましょう。

3) カメムシ類対策について

畦畔の草刈りは出穂の2週間前までに行ってください。出穂期に畦畔刈を行うとカメムシ類を本田に侵入させることになり、斑点米の原因となりますので注意してください。

カメムシが多発している場合は、出穂前と出穂後の2回の防除を行きましょう。

コシヒカリ、キヌヒカリ・・・7月中下旬(出穂前)と8月上旬(出穂後)

山田錦・・・8月20日頃(出穂前)と9月上旬(出穂後)

○薬剤

1回目(出穂前)：トレボン乳剤(60～150L/10a)又はトレボン粉剤DL(3～4kg/10a)

2回目(出穂後)：スタークル粒剤(3kg/10a)又はスタークル豆つぶ(250g/10a)

4) その他(雑草対策)

一年生雑草及び多年生広葉雑草が発生している場合は

アレイルSC(収穫45日前まで、出穂始期15日前まで)で防除しましょう。

例年に比べてカメムシ類が多く確認されています。また、隣接県では既に秋ウンカが確認されており、害虫被害への懸念が高まっています。害虫を圃場で多く見られた場合は、お近くのJA支店までご相談のうえ、必要ならば防除などの対策を実施しましょう。

次回の調査予定日は、令和5年8月1日(火)です。

お問合せ先 J A兵庫六甲 神戸北宮農総合センター

TEL：078-981-5540

FAX：078-981-5817

神戸市北区内(山田2, 淡河2, 上淡河2, 大沢2, 長尾2, 八多2, 道場1)の水稲生育状況及び病害虫発生状況について6月27日に調査しました結果を本紙にてご案内いたします。今後の水稲栽培管理にご活用ください。

1) 病害虫について

病害虫	発生程度	発生予想	概要	今後の対策
いもち病	微	並	わずかな発生がみられます。	緊急の対策は必要ありません。 圃場観察と栽培暦に準じた適期防除に務めてください。
縞葉枯病	無	並		
セジロウンカ	無	並		
ヒメトビウンカ	微	並	わずかな発生がみられます。	
ツマグロヨコバイ	微	並	わずかな発生がみられます。	
斑点米カメムシ	無	並		

※発生程度の小さい順に、無・微・少・中・多・甚(中以上で要防除)

2) 生育状況について

品種名	草丈	茎数	今後の栽培管理について
コシヒカリ キヌヒカリ	並	少～並	中干し時期になりますので、茎数を確保(16～17本)できれば開始してください。カメムシ対策のため、出穂2週間前までに畦畔の草刈りを行いましょう。
山田錦	並	少～並	7月中旬頃に中干し時期になりますので、茎数を確保(15～19本)できれば遅れずに開始し、倒伏しにくい稲株にしましょう。

3) その他

兵庫県病害虫防除所よりいもち病の発生予想は「やや小」と予想され、「ウンカ類」の発生予想は「平年並」と予想されています。

一部圃場にて藻類の発生やホタルイ等の雑草が見られましたので、圃場をよく確認して下さい。

薬剤	適用雑草	使用時期	10aあたり 使用量	使用回数
モグト 粒剤	ウキクサ類、藻類 (アオミドロ・アミミドロ)	ウキクサ類・藻類の発生始め～発生盛期(収穫45日前まで)	2～3kg	3回以内
クインチャーバース ME (移植水稲)	一年生雑草及びマツハイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、オモダカ、セリ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ、キシュウスメノヒエ	移植後15日～ルビエ5葉期、 収穫50日前まで	薬量:1000ml 希釈水量: 70～100ℓ	2回以内
アレイルSC (移植水稲)	一年生雑草及び 多年生広葉雑草	移植後25日～ルビエ5葉期、 収穫45日前まで ※出穂始期15日前まで	薬量:500ml 希釈水量: 50～100ℓ	1回以内

次回の調査予定日は、令和5年7月13日(木)です。

お問い合わせ先 JA兵庫六甲 神戸北宮農総合センター

TEL:078-981-5540

FAX:078-981-5817